

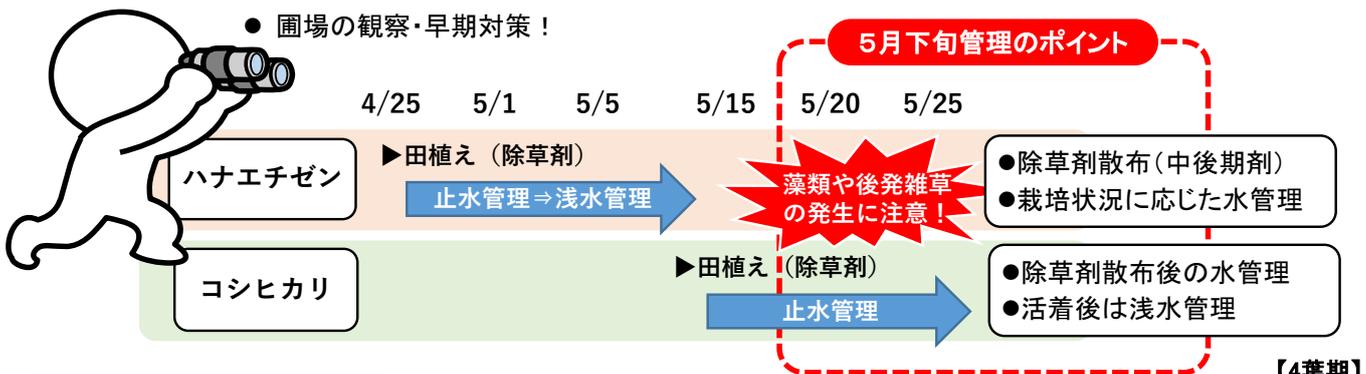
Agri Note 田園

アグリノート米作り情報

(ハナエチゼン・コシヒカリ)

JA福井県

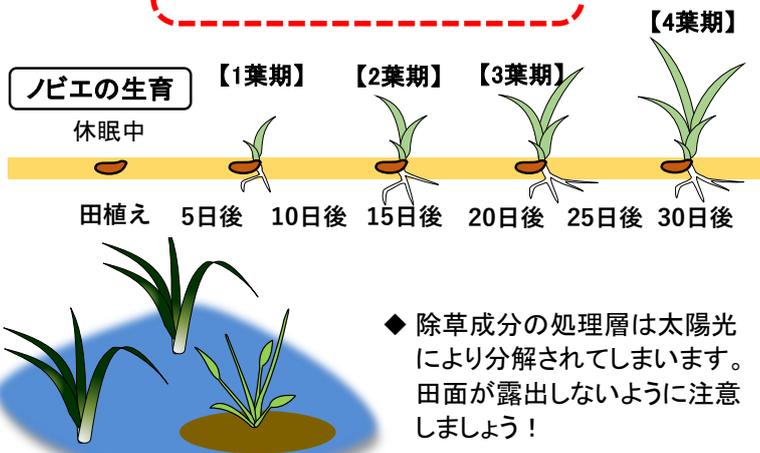
4月下旬から5月上旬は好天に恵まれましたが、平年に比べ気温の低くなる地域がありました。皆様のハナエチゼンの生育はいかがでしょう。5月中旬からはコシヒカリの田植が本格的に始まり、現在は苗が根付く活着期にあたります。田植同時に除草剤を散布された方は、除草効果の持続のため止水管理を行いましょう。また活着後は2~3cmの浅水管理を徹底し、圃場の水温・地温が上がるように努めましょう。今後気温が高くなると、藻類の発生やワキ(ガス)の発生が懸念されます。圃場をしっかりと観察し対策を行いましょう。



1. 水稻除草剤の適正管理

ノビエなどの雑草と水稻苗の生育スピードには差異があります。発生する雑草をしっかり観察し、雑草に適した除草剤の選択と使用を行いましょう。

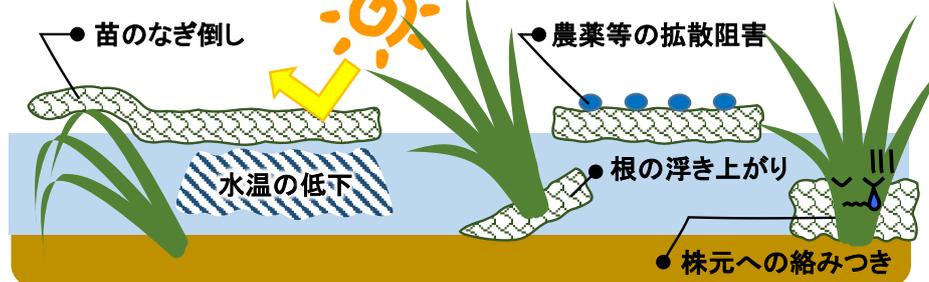
- ◆ 除草成分の処理層をしっかりつくるため、除草剤散布後5~7日間は**止水管理**(落水・入水をしな)を行きましょう。除草効果を長く持続させることができます。



2. 藻類・表層はく離対策

アオミドロなどの緑藻類や珪藻類など水田には数種類の藻類が発生します。これらの藻類が表層はく離を引き起こします。

① 藻類・表層はく離の被害



【発生に好適な水温】

- アオミドロ 18~25℃
- 珪藻類は 25℃

藻類・表層はく離が多発すると...

- 水温・地温の低下による生育抑制
 - 移植直後の苗のなぎ倒し
 - 株元への絡みつき
- などの他、ジャンボ剤などの拡散型除草剤の拡散が阻害されることによる効果不足や薬害の発生が懸念されます。

② 藻類への対策

多発している場合

専用除草剤である“モゲトン粒剤”での防除
 使用時期: 藻類・表層はく離の発生時。収穫45日前まで
 使用量: 2kg/10a (3回以内)



発生前の予防

水稻除草剤の有効成分“ジメタメトリン”を配合した薬剤を発生前に使用すると、一部の藻類の発生を予防することができます。